

令和3年度 第2回「笠間地区 まちづくり会議」概要

日 時：令和3年7月8日（木） 19：30～20：30

場 所：笠間公民館

参加団体等：振興協議会、町内会長会、壮年会、笠間老健会、体育協会、子ども会
指導者会、社会福祉協議会、商工連盟、公民館運審議会、防犯協会、安全協会、
自衛消防連合隊など

発言【1】

(1)笠間公民館の早期完成について（令和4年3月完成予定）

(2)G I G Aスクール構想に関して

（金沢市は金沢ケーブルテレビが割引で提供しているが、白山市はあさがおテレビと連携し提供可能かどうか）

(3)市民提案型のまちづくり支援事業：コミュニティツールを活用した新しいまちづくり（公民館のネットワーク環境について）

【市】

(1) 笠間防災コミュニティセンター（公民館）の建設については、旧公民館の解体を終えて、8月中旬より本格的に取り掛かっています。周辺の集会所を代替公民館として利用していただいておりますが、本来の場所で集まりたいとお気持ちかと思えます。工事関係者へそのお気持ちをお伝えし、工事の安全管理を徹底しながら、円滑に工事が進むように努めて参りたいと考えています。

(2) 国のG I G Aスクール構想により、白山市では昨年度中に全小中学校の児童生徒にタブレット端末を配布しています。

G I G Aスクール実施に向け、金沢ケーブルテレビは小中学生がいる世帯に対し最大1年間料金の割引を実施しているが、あさがおテレビはインターネット環境の無い方について新規加入の場合、半年間インターネット料金を無料としています。

割引内容の違いは企業方針の違いであり、双方の経営戦略で実施している内容であり、現状では市から意見を出す予定はありません。

家庭でのインターネット環境については、W i - F i環境が整備されていないご家庭には、通信費は各家庭での負担となりますが、無償で貸し出しできるモバイルルーターを各学校に配備していますので、そちらを利用いただきたいと思います。各家庭環境にあった方法を選定いただきたいと思います。

(3) 公民館のネットワークの利用に関しては、あまり費用をかけずに行う前提で、今後、市民協働で創るまちづくり会議などを行う中で、28の公民館が本庁舎と

いかに連携するかが大事になると考えているので、必要なことだと考えています。まちづくり支援事業に関しては、地域の特色を生かすことが大事なため、協働のまちづくりと並行して継続していく必要があると思っています。

I C T推進の施策は市としても体系的に行っているところであり、協働のまちづくりを推進していく上においても、情報伝達手段のデジタル化に向けて取り組んでいく必要があると考えております。

発言【2】

市民協働で創るまちづくりについて

(コミュニティーセンターについて)

【市】

公民館のコミュニティーセンター化については、生涯学習を含めた地域の活動に対応したまちづくりの拠点として、地域振興や課題解決などの拠点となるよう公民館をより発展させ、その機能を拡充することにより、地域住民の参画・主体となる地域づくりを推進するものであります。

組織に関しては、基本的には公民館の発展によって地域コミュニティーセンターにかえるものであり、公民館の行事など従来のものは残した上で、防災などこれまで以上に必要なものに関しては改善していこうという取り組みになります。

センター長に関しては、公民館や町内会、地区振興協会などの団体の中で、誰がなるものであるか今後検討していくものです。白山市市民協働で創るまちづくり指針策定委員会の提案で、公民館を市長部局に移すべきという提案をうけ、来年からになるかは分からないですが検討しています。

今後もモデル地区と同じく検討会などを開き協議していきますが、組織構成に関しては基本的には地域に任せる予定であり、市職員の配属に関しては候補が全く居ない場合の例としてあげはしましたが、現状決まっているものは何も無く、候補が居ない場合もそういった対処をおこなう予定はないです。

発言【3】

(1) 米光・北島町、石立町の工業団地化、笠間駅周辺の市街化区域について

(2) 黒瀬町の野球場について

(内野スタンド、スコア表示、バックスクリーン、外野の芝生などに関する要望について)

(3) 新幹線ビジターセンター、西松任駅について

【市】

- (1) ご指摘の区域は、第2次都市計画マスタープランに位置付け、現在、土地利用の見直しにおける市街化編入の協議を国、県等の関係機関と進めており、市街化編入の変更決定の告示について本年12月中を目標に法手続きを進めています。
- (2) 野球場に関しては基本的に相木野球場が土地区画整理事業でなくなることに對する代替施設という立場ですが、スタンドやバックネット、内野席などの最低限のものは追加する予定です。ナイターの設備に関しては、将来の需要に応じて対応できるよう、配線設備のみ建設予定です。実施設計を進める中で、検討していきます。
- (3) (仮称)白山総合車両所ビジターセンターについては、関係機関との調整を図りながら、今年度中に詳細設計、許認可手続等を行い、令和4、5年度で用地買収を経て工事を進め、令和6年春の開業を目指し事業を進めていきます。

発言【4】

市政のスリム化による地域の問題対応力の不安について

(アフターコロナ時代において)

【市】

広域連携や民間活力の導入を行い市政のスリム化や、地域のことを地域で行う形になった際、地域での対応力が不安とのことですが、これからの社会はデジタル化、情報化社会となるため、情報インフラを整備していくことがとても大事であると考えています。

そのため、市では光ケーブルの導入や、金沢工業大学、NTTと連携しながら情報インフラの整備を進めています。整備によって公民館をはじめとした地域や人と人との繋がりを濃くすることで、業務を効率化し、人員のスリム化にも対応していきたいと考えています。

働く人が働きやすい状態に、時代のニーズに応じた形で情報をうまく活用できるのかが、1つの大きな流れになると思っています。

まずはコロナを克服し、次に備えていく必要がある。その再のキーワードが情報インフラになると思います。

また、「市民協働」とは、市民の皆様や行政などが、公共の利益という共通の目的に向かって、共に考え行動し地域を支えることであります。地域の課題解決にあたっている様々な市民と行政が協働を行うことで、地域の実情に對した柔軟できめ細かなサービスの提供が可能になると考えております。